

のぼそう、心のねっこ ―愛される北っ子育成プロジェクト―

刈谷市立富士松北幼稚園

1 はじめに

本園は、刈谷市の北部に位置し、祖父母との同居、あるいは近くに住んでいる幼児が多く、地域の方々にも温かく支えていただいている。今年度、県より絆を育む幼稚園づくり推進事業の指定を受け、保護者や地域とのつながりを深め、協働して魅力ある開かれた幼稚園づくりに努めていきたいと考えた。そこで、子どもたちの豊かな心の根をのぼす、一愛される北っ子育成プロジェクトとテーマを設定し、取り組むことにした。

2 実践のねらい

- 身近な自然に親しみ、五感を通した感動体験を繰り返しながら、豊かな心を育む。
- “北っ子を育む会”を中心としたいろいろな人との関わりを通して、人と関わる楽しさやうれしさを感じるとともに、自分が愛されていることに気付けるようにする。また、相手に喜ばれ感謝されることにより、相手を思い、人の役に立つことをしたいという気持ちを育てる。
- 自分の住む地域の特色や歴史を知り、愛着をもてるようにする。

3 実践の内容

(1) 親子栽培 5月～11月

“北っ子を育む会”の農家の方にご指導をいただきながら、夏野菜、さつまいも、地域の名産である大根の袋栽培に親子で取り組んだ。水をあげたり草取りをしたり、時には、『野菜先生』に野菜の敵“青虫”の退治の仕方を教えてもらったりし、親子で生長を喜びながら育てた。収穫した野菜は家庭に持ち帰り家族で味わった。「このトマト、カチカチだけど甘いね」「Aちゃんが毎日お水あげたからおいしいよ」と、会話も弾み、親子で感動体験を共有するとともに、農家の方や自然に感謝することができた。



親子でさつまいも堀り

(2) 地域のお年寄りとの交流 7月・9月



地域の方とあやとり

地域のお年寄りの集まる“みのりの会”へ甲冑を着て出かけ、ホールで行進したり『水野勝成公音頭（宗休さま音頭）』を歌い踊ったりして披露した。地域のお年寄りの方々から「かわいいね」「上手にできたね」などの声をかけていただいたことで、子どもたちはうれしく感じて、その後は、手をつないで歌を歌ったり、玉入れをしたり、あやとりを教えていただいたりして交流を楽しんだ。この交流会後、近くの老人ホームから「うちの施設にも来ていただきたい」という依頼を受けたので子どもたちに投げかけてみると「いいよ」「行ってあげよう！」と声をそろえて答え、出かけることになった。

(3) 保育園との交流 10月

幼保の連携の一つとして、就学も意識して同じ小学校区の保育園との交流会を行った。初めて出会う幼児ばかりだったが、あいさつを交わすとすぐに打ち解け、一緒に『猛獣狩りゲーム』をしたり、運動会の遊戯を見せたりリレー対決をしたりして交流を行った。特に、運動会の遊戯は同じ曲であったため、お互いの踊りを真剣な眼差しで見入っていた。子どもたちは保育園児の名前を覚え「友達が増えた！」と喜び、小学校への入学がより楽しみになった。



保育園児との交流

(4) 「いざ、出陣！ 北っ子 甲冑行列！」9月～11月

昨年度、刈谷城築城480年記念事業として市内の全幼稚園・保育園の5歳児約1500人が刈谷城跡の亀城公園に集まり甲冑行列を行った。そこで今年度は、子どもたちが自分の住む地域の特色や歴史に興味・関心をもち愛着がもてるように、そして地域の異世代の人たちとふれ合う機会としたいと考え、『北っ子 甲冑行列』を行うことにした。行列を行うにあたり“北っ子を育む会”と内容やルート、当日までの流れなどを話し合った。甲冑行列には、保護者だけでなく地域の方にも参加していただけるように地区の回覧板でお知らせし、地域のパトロール隊の力も借りることにした。また、当日のコースは、園の近くの園外保育でお世話になっているお寺や老人施設、水野勝成公が狩場としていた地域を組み入れて計画した。



親子で甲冑作り



パトロール隊と老人施設へ

子どもたちには、刈谷市のマスコットキャラクター“かつなりくん”や刈谷のお城や歴史に興味がもてるように『初代刈谷藩主 水野勝成物語 ～鬼日向と呼ばれたお殿様～』のアニメDVDの視聴や親子で甲冑作りをする機会をつくった。また、コース中のお寺2箇所では、園児と考えた歌や踊りや槍突きのポーズを披露することにした。『水野勝成公音頭』の歌詞に合わせて「♪やり一筋に♪の所は、こうやって、槍を突くようにしたらどう?」「♪宗休さん、それ、宗休さん♪は、手をたたいたら?」と、担任と振りを付けて当日に臨んだ。

甲冑行列当日は秋晴れの青空に真っ赤な甲冑が映え、見に来てくださったお年寄りや地域の方々は、子どもたちの可愛さや元気よさに顔がほころび、笑顔がたくさん見られた。

甲冑行列を終えた子どもたちに感想を聞くと「お客さんがたくさんいてびっくりした」「拍手をいっぱいもらえてうれしかった」「楽しかった」と笑顔で自信満々に答えた。また、『歩いて見に行けないので、来てください』という手紙を受けて出向いた老人施設で大歓迎されたことから「おばあちゃんたち喜んでくれたね」「行ってよかったね」とつぶやく声が聞こえた。



自分たちで考えた槍の演技を披露

4 実践の成果や課題



たくさんの地域の方に見守られて

本園の一愛される北っ子育成プロジェクトでは、子どもたちの豊かな心の育成を目指し、地域のいろいろな世代の人たちと積極的に関わりがもてるように実践を進めてきた。一年を通して行った親子栽培は、五感を通した感動体験と共に、家族や地域の人からの刺激も加わり、親しみや愛情が育つ機会となった。また、自分たちと同世代の子どもや地域のお年寄りなど、いろいろな人との関わりを通して、人と関わる楽しさを感じ、人に対する優しさを育むことができた。

特に、地域の方と一緒に取り組んだ『北っ子 甲冑行列』では、相手のために自分たちができることをし、相手に喜ばれたり感謝されたりする経験ができ、豊かな心の育ちにつながった。

今後は、それぞれの学年がどのような経験を積み重ねていくとよいか、3年間の育ちを考慮して考え、子どもたちの経験の広がりや心の充実につなげていきたい。また、地域の教育力を取り入れながら、温かさと人々の優しさの中で、子どもたちが心のねっこをのばしていけるように、愛される幼稚園づくりを目指していきたい。